

令和7年度 芸術科

教科	芸術科	科目	書道 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	書 I (教育図書) 書 I プライマリーブック (教育図書)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させ、親しみやすい教材を通して様々な書体を体験することで、自分らしい文字を書くことができるようになることを目指しましょう。
- ・身近に飾れる作品を制作することで、書表現の楽しさを実感し、また達成感を味わいましょう。
- ・授業では、「丁寧に書く」「きれいに書く」ではなく、「どんな作品にしたいのか」
→そのために「どんな工夫が必要なのか」を自身で考え、意図的に取り組む制作活動を行いましょう。
- ・単元ごとの目標を明確にし、書制作の意図や書写技能と鑑賞を並行して授業を進めていきます。
- ・評価方法は、各単元・毎授業での取り組み方を観察、各単元・授業毎の作品や制作カードを通して完成までの過程や理解度などを評価します。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図りながら、様々な創作活動を通して効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫することを通して、書の美を味わいながら様々な作品を表現できるようになる。
- (3) 生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想して表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	書写と書道	・国語科書写と芸術科書道について	[共通事項] a:知識 書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。 b:国語科書写と芸術科書道にどのような違いがあるかを考え理解している。 c:芸術科書道の学習に関心をもち、書道で学習することや、小・中学校で学習した内容に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。	・ワークシート	・ワークシート	・観察 ・ワークシート
	漢字の書	・書体の変遷	a:知識 日本および中国等の文字と書の歴史と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 c:漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・鑑賞 ・ワークシート		・観察
		〈篆刻〉 ・名印制作(一字印／白文 or 朱文)	[共通事項] a:知識 篆刻の線の美や、刻し方による趣の違いを味わい理解している。 a:技能 書体の字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。 b:書体の字形や構成について構想し工夫している。 c:主体的に篆刻の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	・鑑賞 ・制作カード	・成果物(六分印)	・ふりかえり
		〈行書〉 ・筆の弾力と筆の呼吸を知る	a:知識 筆の弾力や筆の呼吸に関心をもち、筆圧の違いや呼吸の長さによる表現の違いを理解している。 c:主体的に筆の弾力や呼吸について関心をもち、積極的に表現方法を学ぼうとしている。	・鑑賞 ・ワークシート		・観察 ・ふりかえり
		・行書の古典から学ぶ「蘭亭序」	[共通事項] a:知識 行書の古典の書体や書風・用筆・運筆との関わりについて理解している。また、行書の古典から、書体の特徴を理解し、捉えようとしている。 b:行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。 c:主体的に古典を鑑賞し、その書風について理解し、そのよさを味わっている。	・ワークシート	・成果物	・観察 ・ふりかえり ・相互批評
		・行書一字創作	a:技能 筆の弾力や呼吸を利用する用筆方法を身につけ表している。 b:筆圧の違いや呼吸の長さによる表現の違いを理解し、意図的に工夫している。 c:行書の用筆・運筆、特徴などを理解し、自身の表現意図に応じた作品を主体的に創作しようとしている。	・制作カード	・成果物	・相互批評 ・観察

※令和4年度以降入学生用

二学期	漢字の書	・コンクールに出品	[共通事項] a: 知識 さまざまな古典の書体や書風、字形や用筆の特徴の違いについて理解している。 a: 技能 さまざまな古典の字形や用筆などの特徴を捉え、書風を生かし表わしている。 b: さまざまな古典の基本的な用筆法方を理解し、表現を工夫している。 c: さまざまな古典の美とその表現技法について関心をもち、主体的に自身の表現活動に取り組もうとしている。	・ワークシート	・成果物	・観察 ・相互批評 ・ふりかえり
		〈楷書〉 「九成宮醴泉銘」 「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」	[共通事項] a: 知識 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 a: 技能 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 b: 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。 c: 楷書のよさや美しさを読みとり、楷書の表現の特質に基づく表現活動に主体的に取り組もうとしている。	・ワークシート	・成果物	・観察 ・ふりかえり
		・楷書の創作	a: 技能 楷書の古典の特徴を理解し、その書風を生かした表現ができる。 b: 自身の作品をどのように表現したいのか思考し、楷書の古典や書風を生かした表現方法を意図に基づいて構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく学習活動を主体的に取り組む、粘り強く作品制作に取り組んでいる。	・制作カード	・成果物	・相互批評 ・観察
	漢字仮名交じりの書	・著作権について考える	[共通事項] b: 生活や社会における著作権について理解している。 c: 主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		・ワークシート	・観察
		・古典を生かした表現	[共通事項] a: 知識 線質、字形等の要素と表現効果や書風との関わりについて理解している。	・ワークシート	・成果物	・観察 ・ふりかえり
		・紙面構成を考える ・創作	a: 技能 目的や用途に即した効果的な表現や、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。 b: 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、落款の位置や周囲の余白も想定した全体の構成と表現形式を意図に基づいて構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく学習活動を主体的に取り組もうとしている。	・制作カード	・成果物	・観察 ・相互批評 ・ふりかえり
三学期	仮名の書	・仮名の成立と変遷	[共通事項] a: 知識 仮名の成立と変遷について理解している。 c: 主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	・ワークシート		・観察
		・基本用筆 ・平仮名 ・連綿 ・仮名創作(短文)	a: 技能 仮名の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法を身につけている。 b: 仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 c: 主体的に仮名の書の表現の特質に基づく表現活動に取り組んでいる。また、自身の表現の意図に基づく表現主体的に取り組もうとしている。	・ワークシート	・成果物	・観察 ・ふりかえり

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術科	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	書Ⅱ (教育図書)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・書道Ⅰで培った技術等を発展させ、作品制作に取り組みましょう。
- ・さまざまな書体の変遷を知った上で、現在使っている文字の良さも体感し、生活の中に文字を活かせるようになることをめざしましょう。
- ・授業では、鑑賞活動を通して制作意図の設定方法や技術を学習し、各単元・毎授業の取り組み方、作品や制作カードの提出などにより評価します。

2 学習の到達目標

書道の創造的な書活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。
- (2)書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようになる。
- (3)主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	仮名の書	- 変体仮名を学ぶ - 仮名の古筆臨書「高野切第三種」「寸松庵色紙」	[共通事項] a:知識 - 仮名の書を構成する様々な要素について理解している。 - 仮名の書の古筆の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 a:技能 - 仮名の古筆に基づく効果的な表現の技能、墨継ぎや散らし書き等による全体の構成の技能を身に付けている。 b:仮名の古筆の表現形式に応じた全体の構成について構想し、工夫している。 c:主体的に仮名の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート	成果物	- 観察 - ふりかえり
	漢字の書	〈篆書〉 - 書体の変遷 - 篆書の基本用筆 - 篆書の古典臨書「泰山刻石」	[共通事項] a:知識 - 篆書の線質、字形、構成等の要素について理解している。 a:技能 - 篆書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b:篆書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c:篆書のよさや美しさを感じ、作品や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	- 鑑賞 - ワークシート	成果物	- 観察 - ふりかえり
二学期	漢字の書	〈篆刻〉 名印制作(八分印)	a:知識 - 印を構成する様々な要素について理解している。 - 印の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 - 印の線質、書風、構成等の要素と表現効果について理解している。 a:技能 - 効果的な表現の技能を身に付けている。 b:意図に応じた布字の構成について構想し工夫している。 c:印や刻字の表現の特質に基づく表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	- 鑑賞 - 制作カード	成果物(八分印)(四分印)	- 観察 - ふりかえり

※令和4年度以降入学生用

		〈隸書〉 ・隸書の基本用筆 ・隸書の古典 「曹全碑」 「乙瑛碑」 「居延漢簡」 ・隸書の創作 (二字熟語制作)	[共通事項] a:知識 ・隸書を構成する様々な要素について理解している。 ・隸書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 a:技能 ・隸書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b:隸書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c:隸書のよさや美しさを感じ、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	・鑑賞 ・ワークシート ・制作カード	・成果物 ・成果物	・観察 ・ふりかえり ・ふりかえり
三学期	漢字仮名交じりの書	・古典の書風を生かした表現を学ぶ ・紙面構成の方法を学ぶ ・創作 言葉と書の調和を考える	[共通事項] a:知識 ・漢字仮名交じりの書を構成する様々な線質、字形等の要素や、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 a:知識 ・漢字仮名交じりの書の線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解を深めている。 a:技能 ・目的や用途に即した効果的な表現や、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。 b:漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、落款の位置や周囲の余白も想定した全体の構成と表現形式を意図に基づいて構想し工夫している。 c:自身の表現の意図に基づく学習活動を主体的に取り組もうとしている。	・ワークシート ・制作カード	・成果物 ・成果物	・観察 ・ふりかえり ・観察 ・相互批評 ・ふりかえり

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	書Ⅲ（教育図書出版）						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

書道の創造的な諸活動を通じ、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育成するとともに、書道Ⅰ・Ⅱで学習した内容を更に深め、感性を磨き、個性豊かな書表現や鑑賞活動に取り組む。

授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現（書作の意図・書写技能）と鑑賞を並行して扱い、評価については各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

a:知識・技能

文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能を習得できている。

b:思考・判断・表現

意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい深く捉えたりすることができる。

c:主体的に学習に取り組む態度

積極的に書道の創造的な諸活動に取り組むことができる。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい深く捉えたりすることができるようになる。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単 元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	「漢字仮名混じり」の学習	◆グループ学習を行い、相互批評をおこなうことで、コミュニケーション能力と他者の作品を尊重する心情を育てる。 ◆漢字仮名混じり文で作品制作を行なうための、基本的な表現方法を硬筆で行う。 ◆詩句のイメージ・内容を理解し、字形の変化や紙面への配置など、ふさわしい表現を構想・工夫し、硬筆で作品の草稿を作成する。 ◆毛筆での制作にあたり、詩句のイメージ・内容が伝わるように用筆法を工夫する。	a: 構想をもとに、表現する技能を身に付け表している。 b: 語句の意味を考え、制作時の表現意図が作品に反映するよう工夫している。 b: 作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じその良さを味わっている c: 表現とは何かを理解し、積極的に取り組んでいる。 作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。 製作段階に応じ、各観点を提示	作品	WS 作品	観察 WS
	表具	◆上記、制作した作品を文化祭に展示できるようパネルに表具する。 ◆各自の作品が唯一物であることを理解し、物品などに対し大切に扱う心情を育てる。	b: 表具の際のマット・化粧紙の色調など自分の作品に合うよう、工夫している。 c: 作品表具の際、作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。		作品	WS 作品
	硬筆	◆硬筆で実用書を学び常識的な書式や文化を理解する。 ◆行書体での「暑中見舞い」を制作する。	a: ハガキの書式を理解し、丁寧さを持って制作し、工夫している。また、紙面の文字の大きさ・バランス・配置など適正である。 b: 行書の特徴・技法を適切に表現できている。 c: 書式に関心を持ち取り組んでいる	WS 作品	WS 作品	WS
2 学期	古典臨書学習 臨書作品制作	◆書道Ⅰ・Ⅱで学習した篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名を書道Ⅲの教科書を中心に順次学習する。 ◆書道Ⅰ・Ⅱで修得した技能・知識を確認しつつ、感性をもって臨書での表現を工夫する。 ◆様々な書体の中から、興味をもち得意となる古典を発見させる。	b: 各古典の特徴を考察し、美しさや趣を味わい、構想に応じ表現を工夫している。 c: 興味を持った古典について、積極的に作者や時代背景を探求し作品を制作している。		WS 作品	WS 観察

※令和4年度以降入学生用

3 学 期	共同作品 ・「卒業の歌」	◆卒業式に歌う「卒業の歌」を題材に、協同作品を制作する。 ◆歌詞全体を受講生全員で分担し、半紙程度の作品サイズで制作し卒業式に展示する。 ◆担当部分の前後する作品の構成を考慮し、常に全体でコミュニケーションをとりながら作業を進める事で、共同作品としての作品レベルの向上と責任感の共有を意識付ける	b: 自分の作品だけでなく、共同作品として構成するにあたり、自他の作品が活かせるよう相互批評を有効に活用し、自分の表現を構想・工夫している。 c: 表現とは何かを理解し、学生生活最後の作品として、受講生全体で協調・協力の念を持って作品制作に積極的に取り組んでいる。	作品	作品 WS
-------------	-----------------	--	--	----	----------

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	高校生の美術 1 (日文)						
副教材等	ワークシート、プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・創造的な造形力を育む態度を身につけましょう。
- ・自分の個性や美的感性を磨くと同時に、他者の表現に共感する態度を磨きましょう。
- ・用具や素材の取り扱いを正しく理解し、安全に気をつけて授業を受けましょう。
- ・課題作品は最後までやり遂げ、完成させて提出しましょう。
- ・授業のポイントや自身で気付いたことなどをメモしていきましょう。

2 学習の到達目標

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きについて考え、主題を生成し創造的に発想したり構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。
- ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	画材や用具の扱いについて正しく理解し、表現活動に際し理にかなった取り扱いができる。	テーマや目的に応じて物事を多面的に考察し、創造的に造形する力、適切な手法技法を選択することができる。	色彩や構図法など学んだ表現技法や理論を活用しようとする態度、他者の作品に対して論拠のある共感や評価をしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	オリエンテーション	美術とは何か	a: b: c:			
	【デザイン】色彩の学習	・色の三属性 ・色の調子 ・色対比 ・色の機能 ・混色演習 ・色彩構成	a: 色彩に関する用語やその用法を理解し活用できる。テーマの意図やねらいを考えて混色する技術を身に付け表現することに関心をもつ。基本的な色彩の効果を理解し、それを主体的に構想に生かすことができる。 絵の具の特性や技法に興味を持ち、表現に創意工夫ができる。 b: 語句からイメージを広げ、そこから連想される事物の情景や、そのイメージに相応しい象徴的な配色が発想できている。 c: 絵の具の混色効果を理解し、目的や意図に応じ、特性や効果を生かして表現しようとしている。	ワークシート 作品	ワークシート 作品	ワークシート 作品 学習状況の観察
2学期	夏季休暇鑑賞課題	高校展の作品鑑賞	a: 作品のよさや、作者の心情や意図と多様な表現に関心を持ち、作品について理解しようとしている。 b: 同上 c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。	鑑賞レポート	鑑賞レポート	鑑賞レポート

※令和4年度以降入学生用

	【絵画】 様々な表現技法	さまざまな表現技法 ・様々な表現技法を習得し、技法を使って制作した「素材」を再構成することで新たな作品を創造する ・課題制作 ・作品鑑賞	a: さまざまな表現技法の造形的要素で感じ取ったことや考えたことに関心が持てる。技法に関心をもち表現できる。技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。 b: 感じたことや考えたことから主題を生成し、主題を効果的に表現するために構図などの画面上のバランスを工夫できる。 c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。	ワークシート 課題作品	ワークシート 課題作品	ワークシート 課題作品 学習状況の観察
3学期	【デザイン】 切り絵で表現しよう	・切り絵 ・作品鑑賞	a: 作品を造形的に表現することに関心が持てる。切り絵の表現の特性を理解し、テーマに応じて特性や効果を生かして表現している。 b: テーマに沿って造形的なおもしろさと調和を考え主題を生成している。形や色彩などの造形的要素の働きを考え創意工夫して構想が練れる。 c: 主体的に主題を生成し、形や色彩などの造形的要素の働きを考え創意工夫して構想が練れる。他者の作品の表現の意図や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシート 課題作品	ワークシート 課題作品	ワークシート 課題作品 学習状況の観察

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）						
副教材等	ワークシートプリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

作品制作や鑑賞をととして、自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生み出す力を身につけましょう。
 心豊かな表現の構想、表現形式や材料・技法の活用、形や色彩の効果を生かして個性豊かな表現を追究します。
 主題や目的、意図に応じて、表現方法を工夫して創造的に表現することを学びましょう。
 芸術作品の美しさや美術文化について理解を深めるとともに、自己や他者のよさを認め合い、感性を高めましょう。
 作品の相互評価をするなど、表現活動とともに鑑賞する力を身につけましょう。

2 学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	- 対象や、事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 表現技法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想して構想を練ったり、自己の価値観を高め美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表現している。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	a b 主な評価の観点	評価方法		
				(a)	(b)	8c)
1学期	オリエンテーション	表現とは何か 美術Ⅰを振り返り、美術Ⅱの学習イメージを持ち、美術の学びの深まりと意味について考える	a: b: c:			
	【絵画】 「油彩画の制作」	油彩画の制作「静物画」 ・卓上モチーフデッサン ・油彩制作 ・作品鑑賞	a:観察を通して考えたこと感じたことに興味を持てる。描写を通して形体の構造や描写方法に興味を持ち表現できる。技法や画材の使い方を理解し目的や意図に応じて特性や効果を生かして表現している。 b: 観察を通して考えたことや感じたことに興味を持てる。描写を通して形体の構造や描写方法に興味を持ち表現できる。 c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り感想を的確に表現できる。	ワークシート アイデア スケッチ 作品	ワークシート アイデア スケッチ 作品	レポート アイデア スケッチ 作品
	夏季休暇課題	高校展鑑賞レポート	a: 他者の表現に興味を持ち、作者の意図や表現に関心を持ち作品理解に努めている。 b: 同上 c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り感想を的確に表現できる。	レポート	レポート	レポート

※令和4年度以降入学生用

2学期	【デザイン】 架空の展覧会のポスターを制作する	ポスター制作 ・アイデア構想 ・制作 ・作品鑑賞	a: 様々なスタイルのポスターに関心を持ち、ポスターを通して伝達のためのデザインに主体的に取り組む。形や色彩などの造形要素の効果的な働きについて考え、テーマに合った伝達表現の構想が練れる。 b: 色彩効果や、絵の具の描画技法を理解し、主題をより効果的な構成方法でデザイン表現できる。 c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえる。	学習状況の 観察 アイデア スケッチ	完成作品 アイデア スケッチ	レポート 学習状況の 観察
3学期	【絵画】 版で表す「ペーパードライポイント」	ペーパードライポイント ・アイデア構想 ・下絵 ・作品制作 ・鑑賞	a: 様々な生き物を表現することに興味関心を持ち、生き物のデザインに主体的に取り組める。 b: 造形要素について考え、独創的な表現の構想を練れる。主題をより効果的畫面構成で表現できる。 c: 美術作品などの表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえる。	学習状況の 観察 アイデア スケッチ 作品	ワークシート 作品	レポート 作品 学習状況の 観察

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高校生の美術3 (日本文教出版)						
副教材等	ワークシート、プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・創造的な造形力を育む態度を身につけましょう。
- ・自分の個性や美的感性を磨くと同時に、他者の表現に共感する態度を磨きましょう。
- ・用具や素材の取り扱いを正しく理解し、安全に気をつけて授業を受けましょう。
- ・課題作品は最後までやり遂げ、完成させて提出しましょう。
- ・授業のポイントや自身で気付いたことなどをメモしていきましょう。

2 学習の到達目標

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きについて考え、主題を生成し創造的に発想したり構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。
- ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	画材、用具の扱いについて正しく理解し、表現活動に際し理にかなった取り扱いができる。	テーマや目的に応じて物事を多面的に考察し、創造的に造形する力、適切な手法技法を選択することができる。	色彩や構図法など学んだ表現技法や理論を活用しようとする態度、他者の作品に対して論拠のある共感や評価をしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	オリエンテーション	美しいとは何か	a: b: c:			
	【デザイン】文化祭のカードのデザイン	文化祭のカードデザイン 「auPAY カードのデザイン」	a: テーマの意図やねらいを考えて表現することに関心をもつ。テーマを理解し、それを主体的に構想に生かすことができる。 色彩表現に創意工夫ができる。 b: テーマからイメージを広げ、そこから連想される事物の情景や、そのイメージに相応しい象徴的な配色が発想できている。 c: 目的や意図に応じ、特性や効果を生かして表現している。	ワークシート アイデア スケッチ 作品	ワークシート アイデア スケッチ 作品	ワークシート アイデア スケッチ 作品 学習状況の観察
2学期	夏季休暇鑑賞課題	高校展の作品鑑賞	a: 作品のよさや、作者の心情や意図と多様な表現に関心を持ち、作品について理解しようとしている。 b: 同上 c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート

※令和4年度以降入学生用

	【絵画】 絵画の役割	・油絵の制作「自由課題」 ・作品鑑賞	a: さまざまな表現技法の造形的要素で感じ取ったことや考えたことに関心を持てる。技法に関心をもち表現できる。技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。 b: 感じたことや考えたことから主題を生成し、主題を効果的に表現するために構図などの画面上のバランスを工夫できる。 c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。	ワークシート 課題作品	ワークシート 課題作品	ワークシート 課題作品 鑑賞 レポート 学習状況 の観察
3学期	【デザイン】 マイルーム	・MY ROOM 何年後かに自分が使いたい部屋をデザインする ・作品鑑賞	a: 様々な家具や照明、内装に興味を持ち、作品を造形的に表現することに関心を持っている。主体的に主題を生成し、形や色彩などの造形的要素の働きを考え創意工夫して構想が練れる。特性を理解し、テーマに応じて特性や効果を生かして表現している。 b: テーマに沿って造形的なおもしろさと調和を考え主題を生成している。 c: 他者の作品の表現の意図や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシート アイデア スケッチ 作品	ワークシート アイデア スケッチ 作品	ワークシート アイデア スケッチ 作品 鑑賞 レポート 学習状況 の観察

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	(専)美術	科目	素描	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	ワークシート、プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

造形表現の基礎となるものの見方を学び観察力をつけましょう。
 デッサンでは卓上モチーフや自画像の鉛筆デッサンを行います。
 対象の客観的な観察を通して構造を理解し、正確な描写力を身につけましょう。また。光源を意識した明暗の表現や固有色、材質感を表現する能力を高めましょう。
 クロッキーでは短い時間で描画する「人物クロッキー」を行います。
 デッサンでは鉛筆を使用しますが、人物クロッキーでは鉛筆以外の画材も使用する予定です。

2 学習の到達目標

対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・表現材料の特性について理解を深め効果的に使用できたか ・描く対象を観察し、形体を把握した表現ができているか ・正確に描写をするための基礎となる技能を身に着けているか	・対象の特徴を理解して構成するための基礎となる思考力・判断力・表現力が育成できているか ・空間を把握するための基礎となる思考力・判断力・表現力が育成できているか ・光源を意識した造形表現を追求することができているか	・構図について主体的に造形表現を追求することができたか ・質感について主体的に造形表現を追求することができたか ・作品の完成に向けて主体的に制作表現を追求する態度を身に着けることができたか
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

※令和4年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	鉛筆デッサンとクロッキー①	1点モチーフ クロッキー ・課題制作 ・作品鑑賞	a: 素描に関する用語や描画材料の用法を理解し使用できる 基本形態を描写する際の注意点を理解し正しく形がとれる b: モチーフの形を構造的に理解し画面構成を考え表現できる 光源を意識した表現ができる c: 画面に最適な構図で描写できる 作品完成に向けて制作表現を追求することができる 相互鑑賞ができる	ワークシート 作品	ワークシート 作品	ワークシート 作品 学習状況の観察
2学期	鉛筆デッサンとクロッキー②	複数モチーフ クロッキー ・課題制作 ・作品鑑賞	a: 素描に関する用語や描画材料の用法を理解し使用できる 基本形態を描写する際の注意点を理解し正しく形がとれる b: モチーフの形を構造的に理解し画面構成を考え表現できる 空間を意識した表現ができる 光源を意識した表現ができる 質感表現を追求している c: 画面に最適な構図で描写できる 作品完成に向けて制作表現を追求することができる 相互鑑賞ができる	ワークシート 作品	ワークシート 作品	ワークシート 作品 学習状況の観察
3学期	鉛筆デッサンとクロッキー③	人物クロッキー ・制作 ・作品鑑賞	a: 描画材料の用法を理解し使用することができる 描写する際の注意点を理解し制作できる 正しく形がとれる b: 人物を構造的に理解し画面構成を考え最適な構図で描写できる c: 作品完成に向けて制作表現を追求することができる 主体的に授業に参加している 相互鑑賞ができる	ワークシート 作品	ワークシート 作品	ワークシート 作品 学習状況の観察

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	硬筆書道	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個々の書き癖を理解させ、美しく文字を書くために必要な目標を個々に立てさせることで、丁寧で読みやすい文字を書く心情を育てる。
文字の字形だけでなく文字の大きさや配置で印象が変わることを理解させる。授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現（書作の意図・書写技能）と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう

2 学習の到達目標

a:知識・技能
使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し形式書式なども理解し活用できるよう様々な表現技能を習得する。

b:思考・判断・表現
文字を美しく見せる要素を理解し、自らの意図に基づいて構想し表現・書作できる。

c:主体的に学習に取り組む態度
文字を美しく書きたいという欲求を持ち、積極的に書作に取り組める。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し形式書式なども理解し活用できるよう、様々な表現技能を習得する。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさ、書の表現意図について主体的に表現や鑑賞ができる態度を育む。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学 期	単 元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	印象の良い文字 の書き方	◆丁寧に読みやすい文字を書く心情を育てる。 ◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習 ◆ボールペンの用筆法	a: 筆記具に応じた持ち方や使用法を身に付け表している。 c: 丁寧に読みやすい文字を書こうと意欲的・向上心を持って取り組んでいる。	作品		観察 WS
	漢字（楷書）の 学習	「部首別による学習」 ◆部首名の学習 ・部首ごとに結構法を学習する。 ◆旧字体・異体字の知識 ◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習	a: 文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを理解している。 b: 他者の作品と自分の作品とを比較し、共通の長所・短所を模索することで、配置や結構法などバランスとは何かを考えその良さを味わっている。 c: 積極的に取り組み、知識・技能の向上に努めている。	作品	作品	WS 作品
		「横書き文章の学習」 ◆横書き文章のまとめ方の学習 ・自分の名前や住所などを中心に履歴書の制作を行なう。				
2 学期	縦書き文章の練習	◆はがき・封筒の表書き書式 ◆縦書き文章のまとめ方の学習 ・手紙文を題材に縦書き文章のまとめ方を学習する。 ・時候の挨拶など日本文化としての手紙の書式を学習する。	a: 文字を美しく見せるための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。 b: 文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫し書作している。 c: 丁寧に読みやすい文字を書こうと意欲的に取り組もうとしている。		WS 作品	WS 作品
	行書による学習 ①	◆自分の名前の楷書・行書の違いを意識し書く。 ◆前単元の内容を、行書を扱い学習する。	a: 楷書・行書の違い観察し、表現に結びつけその良さを味わっている。 c: 新しい書体について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	作品		WS 観察
	行書による学習	◆前項の内容をふまえ筆ペ	a: 筆ペンを、効果的に使	WS	WS	観察

※令和4年度以降入学生用

	②	ンを使用し年賀状や祝儀袋などの書き方を学習する。	用する技能を身に付け表している。 b:行書の特徴をふまえ、文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。 c:新しい技能習得に積極的に取り組んでいる。	作品	作品	
3 学期	感謝状の作成	◆卒業にあたり、筆ペンを使用し感謝状を作成する。 ◆賞状筆耕の書式・規範に従い制作する事で、文字の大きさ・太さ・配置などを工夫し、文書全体のバランス感覚を養う。	a:賞状制作時の規範に従い作成している。 また、筆記具の違いを理解し、太さの違いと文字の大きさに変化をつけ、書作することができる。 b:他者の作品と自分の作品とを比較し、長所・短所を模索することで配置や結構法・配置など、書作に活用できている。 c:感謝の念を込め、丁寧に書作している。	作品	WS 作品	WS 観察

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道演習	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

書作を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、探究心を育成し表現と鑑賞の能力を伸ばす。

また、相互批評などのグループ学習をすることでコミュニケーション能力の向上をめざし、書道芸術作品と自他を尊重する心を育む。

授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現（書作の意図・書写技能）と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞能力を伸ばす。書を生活の中で身近なものであると認識し、文化的教養を身に付けるとともに表現することを通じ自他を尊重する心を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についている。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学 期	単 元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	「いろはうた」 による 作品製作①	◆「いろはうた」を題材に 作品製作をする。 ◆様々な表現技法を習得す る。	a: 1本の筆で様々な線 を書き分ける技能を身に 付け表している。 c: 制作意図を理解し積 極的に取り組んでいる。	作品		観察 WS
	「いろはうた」 による 作品製作②	◆全員同じ言葉を使用し、 作品制作をすることで、自 分にしか書けない作品をテ ーマにし、文字における個 性と表現の工夫を個々に見 つけ出す。	a: 用筆法を工夫し、字間 行間を工夫している。 b: 自分の作品の工夫、他 者の作品の工夫を相互批 正し合う事で、個々の作 品の良さを味わってい る。 c: 制作意図を理解し積極 的に取り組んでいる	作品	作品	WS 作品
	「いろはうた」 作品の 軸装・篆刻	◆制作した作品を展示でき る形にすることで書作品へ の関心を深めるとともに次 回作への向上心と反省の念 を促す。 ◆「いろはうた」作品に押 す印の制作	c: 表具（装丁）作業に おいて自分の作品を大切 に扱っている。 物品・器物への取扱に注 意し、安全に作業を行っ ている。 b: 作品に合う印になる よう工夫している。		WS 作品	WS 作品
2 学 期	小作品制作	◆墨・紙と字形の変化を工 夫し、語句、単語を豆色紙 に書作する。 ◆作品の趣が、語句の意と 合致するよう表現の工夫を 促す。	a: 作品の意図に合わせ 用筆・レイアウトなど作 品制作に関する知識を 有しているか。 b: 語句の意味を考え、 意図をもって表現できて いるか c: 制作時の意図を理解 し積極的に取り組んでい る。	作品	WS 作品	WS 観察

※令和4年度以降入学生用

	さまざまな書式	◆命名・結納など筆書きの書式を学習する	a：書式に対しての知識を理解しているか。 b：用筆法だけでなく、紙面に対する文字の大きさや余白を考え工夫している。 c：書式に応じて美しい文字を書くために、積極的に取り組んでいる。	WS 作品	WS 作品	WS
3 学期	さまざまな表現	◆ポスターやメニューを作成する ◆自分の氏名や商品や店名ロゴを筆文字でデザインする	a：実際のロゴ・ポスターなどを参考に、表現方法の修得に努めている。 b：制作者の表現の意図や、紙面に対する文字の大きさ配置などb:適切な表現方法を選択し、文字の大きさや配置など、構想に基づいて積極的に取り組んでいる また、根拠を持って相互批評している。 c：実際のロゴ・ポスターなどを参考に、表現方法の工夫に努めている。	WS 作品	WS 作品	作品 WS

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	(学)幼児教育音楽	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	バイエル教本、自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

幼児教育系に進学をめざす生徒を対象に、ピアノ演奏の基礎、歌唱、アンサンブルの表現の諸能力を養います。

幼児教育における、実践的、効果的な音楽表現について学び、楽曲のイメージを、音楽がどのように形づくられているかということに関連させて表現する方法について学習していきましょう。実技試験は授業中に個別、又は発表形式で行います。お互いに演奏を聴き合うことで他者の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げていき、今後の音楽表現に生かしていきましょう。

2 学習の到達目標

幅広い音楽活動を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

- (1) 音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。
- (2) 主にピアノの基礎を学び、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。
- (3) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	主に基礎的ピアノの音楽表現において、学んだことを取り入れ、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識・技能を身に付けている。	学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。	主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試し、意欲的に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現 の 基 礎	オリエンテーション ピアノの奏法の基礎 バイエル No1～26	a:【知】楽器の特徴や楽譜の読み方について理解している。【技】基本的な技能を身に付けている。 b:授業の振り返りの中で、自己の課題をみつけ、スキルアップに役立てている【思】【表】 c:様々な演奏に関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		童謡に親しもう	a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。【技】歌唱表現するために基礎的な発声の技術を身に付け表現できている。 b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、個性豊かに表現できている。 c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
2 学 期	表 現 の 発 展	自由曲	a:【知】楽器の特徴や楽譜の読み方について理解している。【技】基本的な技能を身に付け、表現している。 b:授業の振り返りの中で、自己の課題をみつけ、スキルアップに役立てている【思】【表】 c:様々な演奏に関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

		「こどものうた」に親しもう	a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解している。【技】歌唱表現するために基礎的な発声の技術を身に付け表現できている。 b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、個性豊かに表現を工夫できている。 c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
3学期	表現・鑑賞	コンサートを開こう ～音楽Ⅱのまとめとして	a:一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付けている。 b:音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように表すかについて、思いや意図を持っている。 c:1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を年間通して学習します。
- ・音楽がどのように形づくられ、そしてそれをどう感じて表すのかについて歴史的背景とともに学習を進めていきます。周りの人とともに音楽を分かち合い、音楽を通して様々なことを学びます。
- ・様々な音楽にふれ、楽曲そのものだけでなく、その背景となる文化や歴史についても理解を深め、音楽の多様性について理解しつつ広い音楽的視野を身につけていきます。
- ・実技テストは授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。

2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	歌唱・器楽などの音楽表現において、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識を取り入れ、技能を身に付けている。 また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解している。	曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現をしようとしている。	主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、演奏したり鑑賞したりする学習に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	表現	オリエンテーション～イメージをもって歌おう 「校歌」 「Lemon」 「負けないで」 「若者のすべて」 日本歌曲を歌おう 「花」 「夏の思い出」	a:【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、表現している。 b:親しみやすいポップスや効果の旋律・リズムを知覚し特質や雰囲気を感じながら自己のイメージを持って、表現している。 c:音楽を幅広く様々な視点から捉えようとするに関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		ドイツ語に挑戦！ 「野ばら」 F. シューベルト 英語のライムを感じて 「美女と野獣」	a:【知】言葉の特性と曲種に応じた発生との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。【技】曲にふさわしい発声・発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表現している。 b:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージ、思いや意図を持っている。 c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		ボディパーカッションを楽しもう！ 「Plymouth Rock」	a:様々な表現形態による特徴について理解している b:知覚・感受したこととの関わりを思い・意図をもって表現している。 c:身体 of 様々な部位を使って、表したイメージをもって、主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	鑑賞	音楽の要素とイメージをつなげよう 組曲《動物の謝肉祭》サン＝サーンス	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の要素の働きについて理解している。 b: 知覚・感受したこととともに音楽の意味や価値、音楽の美しさを味わって聴いている。 c: それぞれの動物を表す音楽の要素に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
2学期	表現	三線の音色を楽しもう 「海の声」	a: 楽器の歴史や構造を理解し、「工工四」の読譜や奏法を身に付けている。 b: 和楽器独特の響きや特有の音階などの特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。 c: 学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察 振り返りシート
	鑑賞	様々な主題とその構成を聞き取ろう 「交響曲第9番ニ短調 op.125 《合唱付き》から第4楽章」 ベートーヴェン 古の音楽に思いをはせよう 「越天楽」	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 音楽の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽の良さや美しさを自ら味わって聞いている。 c: 主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心を持ち、主体的・共働的に学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

3 学期	表現・鑑賞	コンサートを開こう ～音楽Ⅰのまとめとして	a: 音楽Ⅰの一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。 b: 音楽Ⅰで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。 c: 1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート
---------	-------	--------------------------	---	-----------------	-------------------	---------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を音楽Ⅰの学習経験を基盤として、学習していきます。
- ・音楽を形づくっている要素の働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを理解していきます。
- ・音楽文化についての理解を深めるために、音楽が文学や絵画などの諸芸術や他の文化と互いにどのように影響しあって発展してきたかを様々な教材を通じて考えます。
- ・実技試験は授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。

2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。
- (2) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。
- (3) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	歌唱・器楽などの音楽表現において、学んだことを取り入れ、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識・技能を身に付けている。 また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解し、文章表現できている。	曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現をしようとしている。	主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、演奏したり鑑賞したりする学習に意欲的に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現	オリエンテーション～クラ スの歌声を響かせよう 「SUN」 「歩いて帰ろう」 「ハナミズキ」	a:【知】様々な表現形態による歌 唱表現の特徴について理解して いる。【技】姿勢や呼吸などの身 体の使い方の技能、他者との調和 を意識して歌う技能を身に付け、 表現している。 b:親しみやすいポップスや効果 の旋律・リズムを知覚し特質や雰 囲気を感じながら自己のイメ ージを持って、表現している。 c:歌詞の内容や作詞者・作曲者の メッセージを考えながら二部合 唱で歌うことに関心を持ち、主体 的・協働的に活動に取り組もうと している。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		イタリアの歌の世界 「Nel cor piu non mi sento」	a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞、 文化的・歴史的背景との関わり及 び言葉の特性と曲種に応じた発 声との関わり、それらによって生 みだされる表現上の効果につい て理解している。【技】創意工夫 を生かした歌唱表現するために 発声・発音の技術を身に付け表現 できている。 b:音色、リズム、旋律、強弱、構 成を知覚し、それらの働きを感受 しながら、個性豊かに表現を創意 工夫できている。 c:言葉の特性や曲にふさわしい 発声で表情豊かに歌うことに関 心を持ち、主体的・協働的に取り 組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振り返りシート
		英語でポップスを歌おう 「Can' t Take My Eyes Off Of You」	a: 曲想と音楽の構造や歌詞、文 化的・歴史的背景との関わり及び 言葉の特性と曲種に応じた発声 との関わり、それらによって生み だされる表現上の効果について 理解している。 b: 音色、リズム、旋律、強弱、 構成を知覚し、それらの働きを感	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

			受しながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。 c: 言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。			
	鑑賞	日本の音風景を感じ取ろう	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、我が国の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 b: 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 四季の自然から美しさを感じ取る日本人の美意識や伝統音楽の特徴について理解を深めることに関心を持ち、鑑賞できている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
2学期	表現	アンサンブルを楽しもう 「上を向いて歩こう」 ミュージカルの楽曲に挑戦しよう(二重唱) 「The Phantom of the Opera」 「All I Ask of You」	a: 【知】表現の固有性や多様性について理解している。音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。【技】他者との調和を意識して歌う、表現形態の特徴を生かす技能を身に付けている。 b: 和音・和声を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。 c: 和音・和声を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	鑑賞	音楽の要素に着目して、2つの曲を聴き比べよう ヴィヴァルディ「和声と創意の試み」第1集(四季)から「冬」 ピアソラ「ブエノスアイレスの冬」	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 音楽の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら音楽の良さや美しさを自ら味わって聞いている。 c: 主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているか、独奏楽器と管弦楽との対比に関心を持ち、主体的・共働的に学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
3学期	表現・鑑賞	コンサートを開こう ～音楽Ⅱのまとめとして	a: 音楽Ⅱの一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。 b: 音楽Ⅱで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。 c: 1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	Joy of Music (教育芸術社)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を音楽Ⅰ、Ⅱの学習経験を基盤として、学習していきます。
- ・音楽を形づくっている要素の働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを理解していきます。
- ・音楽文化についての理解を深めるために、音楽が文学や絵画などの諸芸術や他の文化と互いにどのように影響しあって発展してきたかを様々な教材を通じて考えます。
- ・実技試験は授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。

2 学習の到達目標

- 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。
- (1) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。
 - (2) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。
 - (3) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	歌唱・器楽などの音楽表現において、学んだことを取り入れ、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識・技能を身に付けている。 また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解し、文章表現できている。	曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現をしようとしている。	主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、演奏したり鑑賞したりする学習に意欲的に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現	オリエンテーション〜クラス の歌声を響かせよう 「Prpgress」 「アイノカタチ feat. HIDE」 「春よ、来い」	a:【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、個豊かに表現している。 b:親しみやすいポップスや効果の旋律・リズムを知覚し特質や雰囲気を感じながら自己のイメージを持って、表現している。 c:歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら二部合唱で歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振返りシート
		日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽を体験しよう 「日本音楽の特徴」「世界の諸民族の音楽」	a:【知】芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化とのかかわりについて理解するとともに意味や価値について理解する【技】創意工夫や表現上の効果を生かした演奏表現をするために必要な技能を身に付けながら、個性豊かに演奏表現を創意工夫する。 b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。 c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	観察 振返りシート
		英語でポップスを歌おう 「I need to be in love」	a: 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらによって生みだされる表現上の効果について理解している。 b: 音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振返りシート

※令和4年度以降入学生用

			受しながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。 c: 言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。			
	鑑賞	《レ・ミゼラブル》	a: 【知】芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化とのかかわりについて理解するとともに意味や価値について理解する【技】創意工夫や表現上の効果を生かした演奏表現をするために必要な技能を身に付けながら、個性豊かに演奏表現を創意工夫することへつなげる。 b: 音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かな表現に結びつけている。 c: 言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、鑑賞している。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
2学期	表現	アンサンブルを楽しもう 「上を向いて歩こう」 ミュージカルの楽曲に挑戦しよう 「夢やぶれて」	a: 【知】表現の固有性や多様性について理解している。音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。【技】他者との調和を意識して歌う、表現形態の特徴を生かす技能を身に付けている。 b: 和音・和声を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。 c: 和音・和声を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	表現・鑑賞	コンサートを開こう① ～3年間のまとめとして	a: 3年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。 b: 音楽ⅠⅡⅢで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。 c: 3年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
3学期	表現・鑑賞	コンサートを開こう② ～3年間のまとめとして	a: 3年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。 b: 音楽ⅠⅡⅢで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。 c: 3年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度